国際メンタリングワークショップ
Joshikai in Fukushima 2024
結果概要

2024年10月

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

INDEX

- 開催概要
- 国内外共同議長＆メンター
- プログラム・アジェンダ
- 事前・事後効果測定アンケート
- 感想アンケート
- メディア露出

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

開催概要

◆ **日程**
ワークショップ　　：7月27日（土）、28日（日）
1F視察（希望者）：29日（月）

◆ **場所**
双葉町産業交流センター（F-BICC）
福島県双葉郡双葉町大字中野字高田１番地１）

◆ **参加者**
福島県内の女子高校生（28名）
福島県外の女子高校生（13名）
海外女子生徒（米国　4名）
引率先生（国内９名、米国１名）

◆ **共催**
経済協力開発機構原子力機関（OECD/NEA）

◆ **後援**
福島県教育委員会
双葉町
福島国際研究教育機構(F-REI)

◆ **協力**
日本原子力研究開発機構(JAEA)
量子科学技術研究開発機構(QST)
産業技術総合研究所
東京工業大学
東北大学　東北メディカル・メガバンク機構
福島大学

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

国内外共同議長＆メンター

国内共同議長
室伏きみ子
お茶の水女子大学 名誉教授（前･学長）

国内共同議長代理
渡辺美代子
日本大学　常務理事

メンター
佐々木成江
東京大学大学院理学系研究科
特任准教授

メンター
田上 恵子
量子科学技術研究開発機構
グループリーダー

メンター
阿部 叶子
東京電力
福島第一廃炉推進カンパニー

海外共同議長
フィオナ･レイモン
英国国立原子力研究所（NNL）主席科学者

メンター
アンドレア･コック
米国･原子炉規制 技術担当次長

メンター
サラ･ラシャッド･サディ
UAE･連邦原子力規制当局

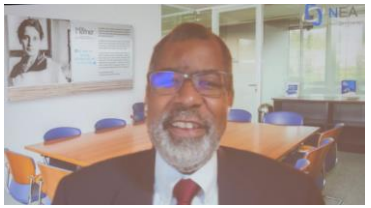
メンター
ヨンニ･ハ
韓国･原子力安全研究院グローバルアクティビティ
副会長

メンター
キャロライン･ジョセフ
米国･ドレスデン原子力発電所　副所長

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

テーマ・プログラム

テーマ	理工系分野での私の未来を考える
Day1	• 主催者挨拶 (ビデオメッセージ、基調講演) • グループディスカッション 1 • メンター講演1 • ポスターセッション • メンター講演2 • グループディスカッション 2 (並行して先生セッション) • メンター講演3 • まとめ • レセプション
Day2	• 特別講演 • 伝承館視察 • 福島レクチャー • プレゼン準備 (並行して先生セッション) • プレゼンテーション • 海外生徒発表 • Joshikai2023参加者発表 • ラウンドテーブルミーティング • 浅野撚糸工場視察 (希望者のみ)
Day3	• 福島第一原子力発電所視察 (希望者のみ)



©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

プログラム・アジェンダ（Day 1-1）

プログラム	アジェンダ(実施概要)
挨拶 (主催者、共催者、来賓)	NDF、OECD/NEAより本プログラム開催の意義を含め挨拶を行いました。また開催地である双葉町長、原子力委員会の岡田委員にお越しいただき、ご挨拶いただきました。
基調講演 (各10分)	国内外の議長より自己紹介を含むこれまでのキャリア紹介に加えて、女性が理工系で活躍することの重要性などについて基調講演をいただきました。
グループディスカッション (90分+80分)	生徒を9グループに分け、それぞれにメンター・リサーチャーメンター1名ずつを配置し、ディスカッションを進めました。メンターに対しての質問（なぜ理工系に進んだかなど）や自身の悩みなどをグループで共有しました。
引率先生向けセッション	東京大学男女共同参画室室員でもある熊田亜紀子教授に「東京大学における女子中高生進学促進活動」について講演いただき、引率教諭とともにディスカッションしました。
メンター講演 (各10分)	現在の仕事内容、これまでのキャリア、家族のこと、趣味など自己紹介を交えながらの講演を実施。これまでのキャリアで悩んだことや分岐点での決断、家族のサポート内容などを共有していただきました。

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

プログラム・アジェンダ（Day 1-2）

プログラム	アジェンダ(実施概要)
ポスターセッション（90分）	7つの機関や大学からリサーチャーメンターとして参加した8名の研究者から研究分野の分かりやすい説明を聞くポスターセッションを実施しました。将来の選択肢の幅を広げることを目的に、様々な分野の若手女性研究者を集まっていただき、研究発表だけでなく、現在のライフスタイルや進路時に悩んだことなども共有されました。

	氏名	肩書	発表テーマ
1	小林 奈通子	F-REI客員研究員 (東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授)	放射性同位体を使って植物の成長戦略を知る
2	岡野 夕香里	福島大学 農学群食農学類 植物病理学 准教授	生物の力を利用して植物を病気から守る
3	野澤 佳世	東京工業大学 生命理工学院 准教授	原子の世界をのぞく技術でゲノム構造を見る！
4	石塚 知香子	東京工業大学 ゼロカーボンエネルギー研究所 助教	「核反応の研究で原子力エネルギー・がん治療・元素の起源・宇宙物理をつなぐ」
5	畑中 里衣子	東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 助教	地域住民コホート調査の概要とその成果 －東日本大震災後の高血圧治療中断に関する研究－
6	氏家 里紗	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構（QST） 量子生命科学研究所 量子生命センシンググループ 次世代量子センサー 博士研究員	生体ナノ量子センサーを用いた細胞温度計測
7	古林 真衣子	国立研究開発法人 産業技術総合研究所（AIST） 生物プロセス研究部門 応用分子微生物学研究グループ 主任研究員	遺伝子組換え微生物による新たな色素・香料・高機能化合物の生産
8	高井 静香	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構（JAEA） 安全研究センター 廃棄物・環境安全グループ 研究員	地下に広がる汚染を3次元で高精度に評価 －廃炉への貢献を目指して－

レセプション（90分）	交流を兼ねて、レセプションを行いメンターや他校からの参加者、米国の生徒とコミュニケーションを図りました。また参加者一人一人に参加証を授与しました。

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

プログラム・アジェンダ（Day 2 -1）

プログラム	アジェンダ(実施概要)
特別講演（15分）	福島国際研究教育機関(F-REI)山崎理事長をお迎えして、「未来のリーダーとなるために」というタイトルで、大学で何をすべきか、未来のリーダーになるために今から身につけるべきことを講演していただきました。
伝承館視察（60分）	東日本大震災原子力災害伝承館にて福島で起きた地震、津波、東京電力福島第一原発事故という未曽有の複合災害の実態や、復興に向けた歩みの展示を見学し、理解を深めました。
福島レクチャー（30分）	経済産業省職員による、事故当時の様子や福島復興の取組、廃炉に関するレクチャーを行っていただき、廃炉に関する理解を深めました。
プレゼン準備(75分)	プレゼン準備ではこの2日間で学んだことを発表するための準備時間を設け、各グループで作業を行いました。
プレゼン(95分)	本プログラムを通じて学んだことをそれぞれグループ毎に発表しました。英語でプレゼンをするグループ、自分たちで台本を書き寸劇で学びを表現するなど、それぞれ独自の個性がありました。

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

プログラム・アジェンダ（Day 2 -2 & Day3）

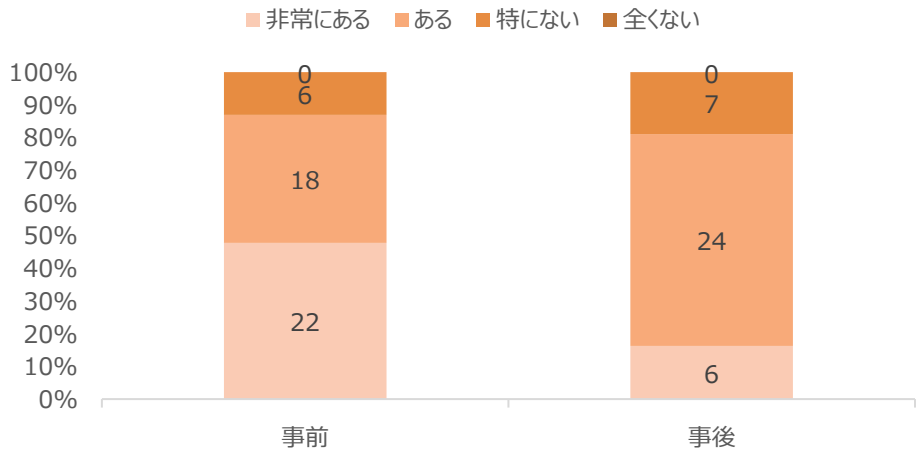
プログラム	アジェンダ(実施概要)	
海外生徒発表 (30分)	米国より参加した生徒から学校生活はじめ現地での日常生活の発表が行われました。日本との違いに日本人生徒からは多くの質問が飛び交い、同年代の異文化交流の場となりました。	
Joshikai 2023 参加者発表 (15分)	米国テキサスで実施されたメンタリングワークショップに参加した昨年Joshikai参加生徒5名より、現地で学んだ事や体験してきたことを発表してもらいました。	
ラウンドテーブルミーティング (60分)	NDF山名理事長、共同議長のフィオナ博士よりそれぞれのキャリアから得られた経験談や参加者へ向けた言葉を述べていただきました。また参加者からも多くの質問があり、それに対し両名が回答しながらメンタリングワークショップの総括を行いました。	
浅野撚糸工場視察 (希望者のみ)	双葉町が整備した「双葉町中野地区復興産業拠点」に工場を構える浅野撚糸の視察を希望者を対象に実施。工場設立の経緯はじめ若手社員の方々より復興に対する思いを語っていただきました。	
【Day3 】 1F視察 (希望者のみ)	希望者のみを対象に福島第一原子力発電所の視察を実施。海外生徒、海外メンターを含む総勢50名が視察を行いました。視察後には質疑応答が行われました。	

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

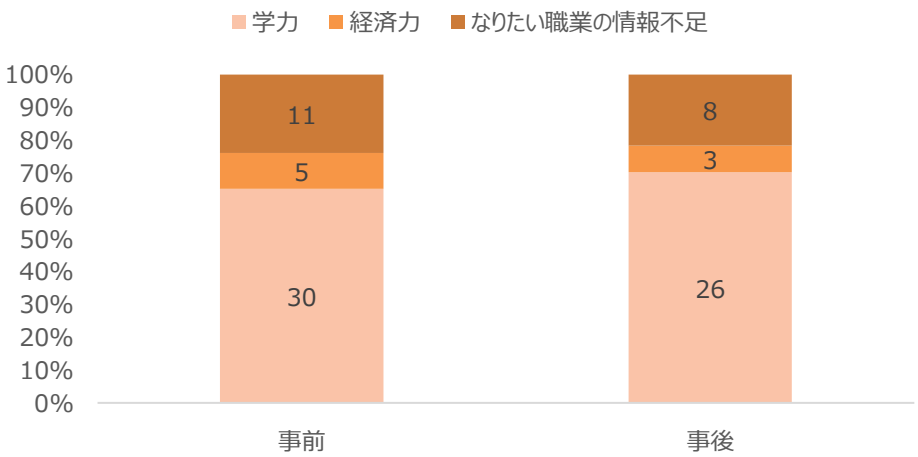
事前・事後効果測定アンケート

※集計数に違いあり
事前サンプル数：46
事後サンプル数：37

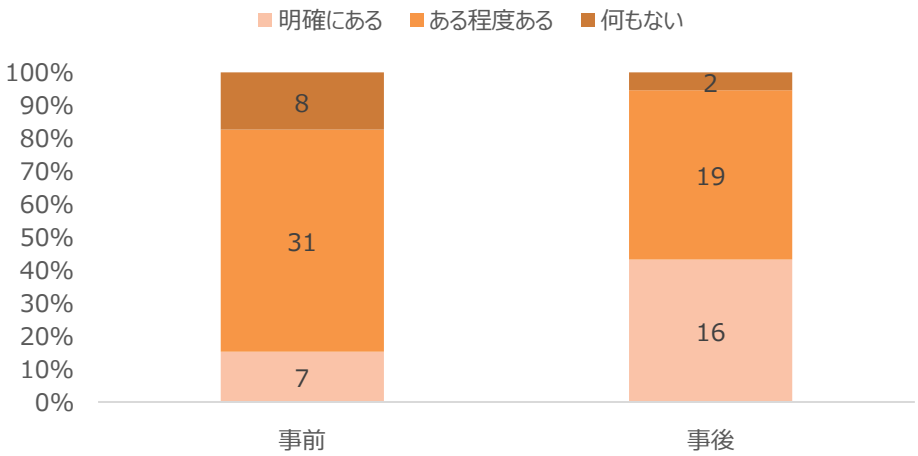
進路に関して不安が



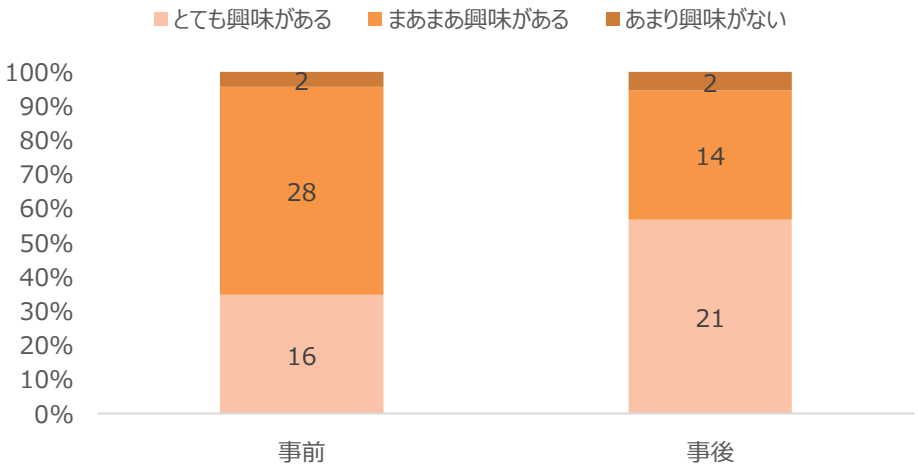
進路に関して不安な原因は



将来の夢が



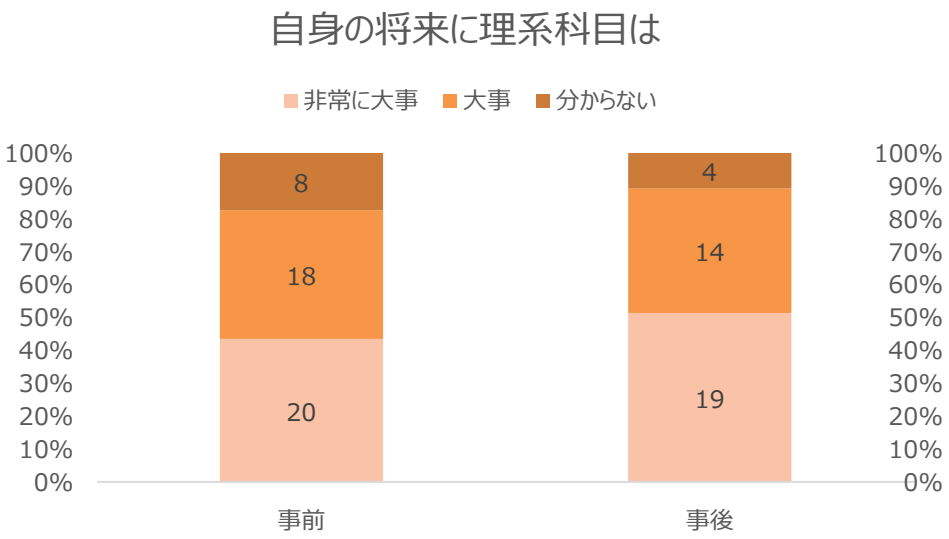
女性専門家がいるネットワークへの参加に

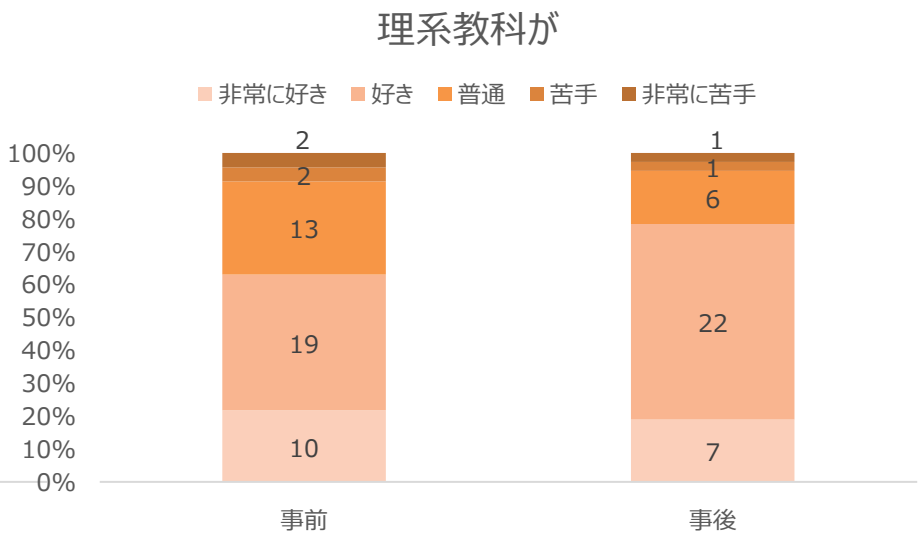


©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

事前・事後効果測定アンケート

【理系科目について】

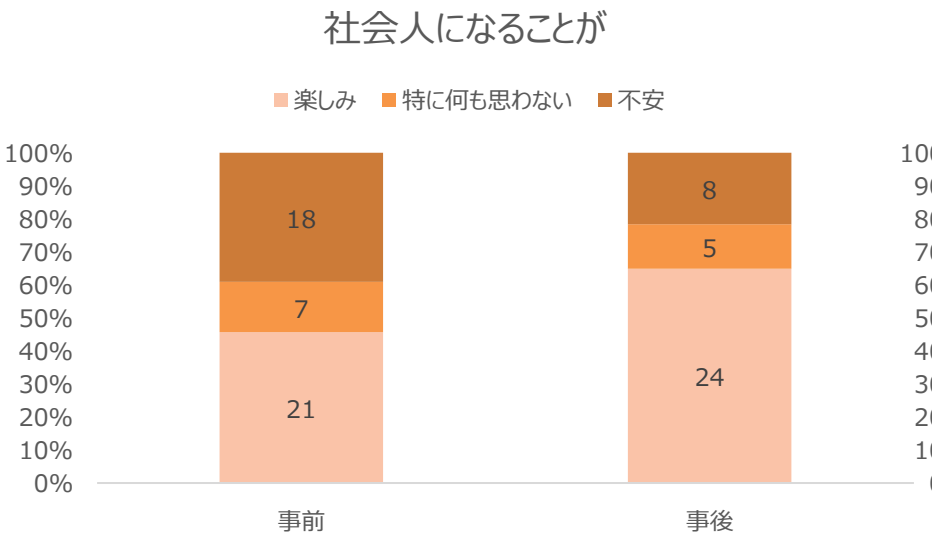


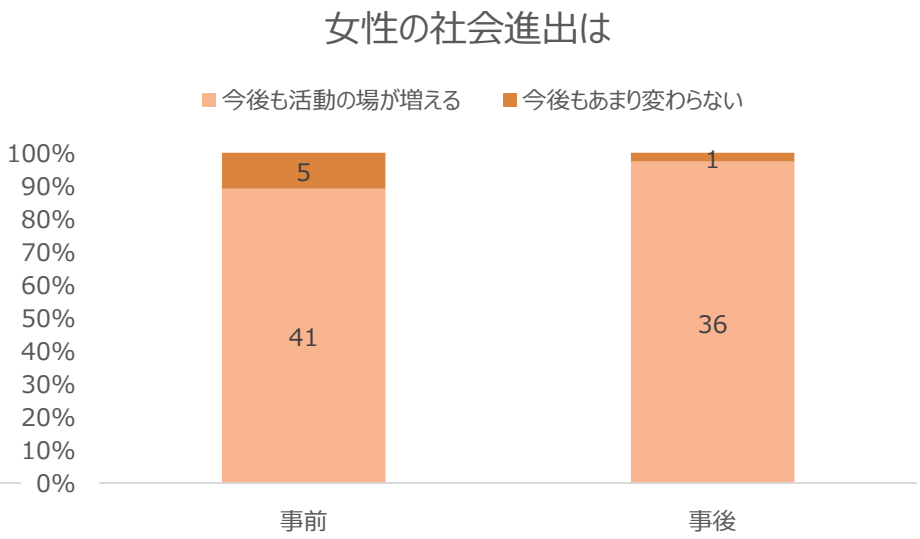


©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

事前・事後効果測定アンケート

【女性と社会】

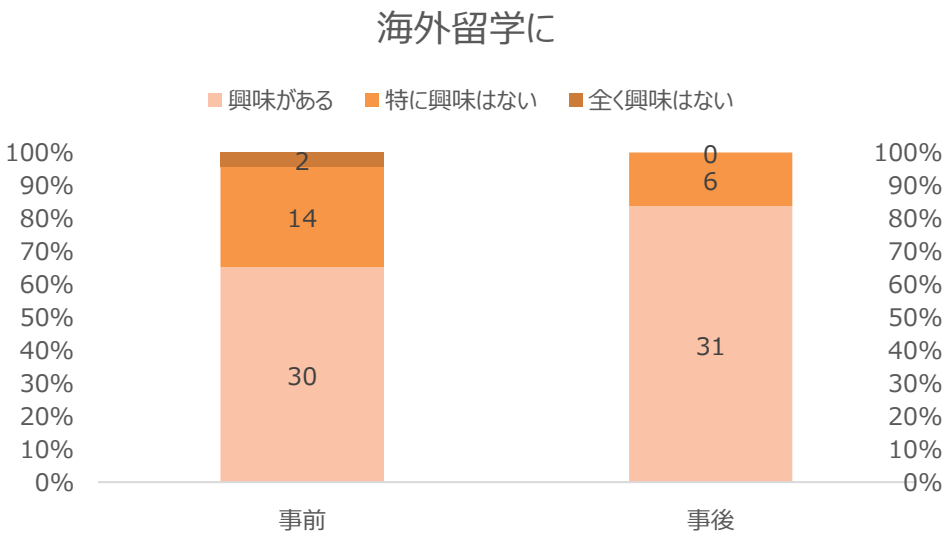


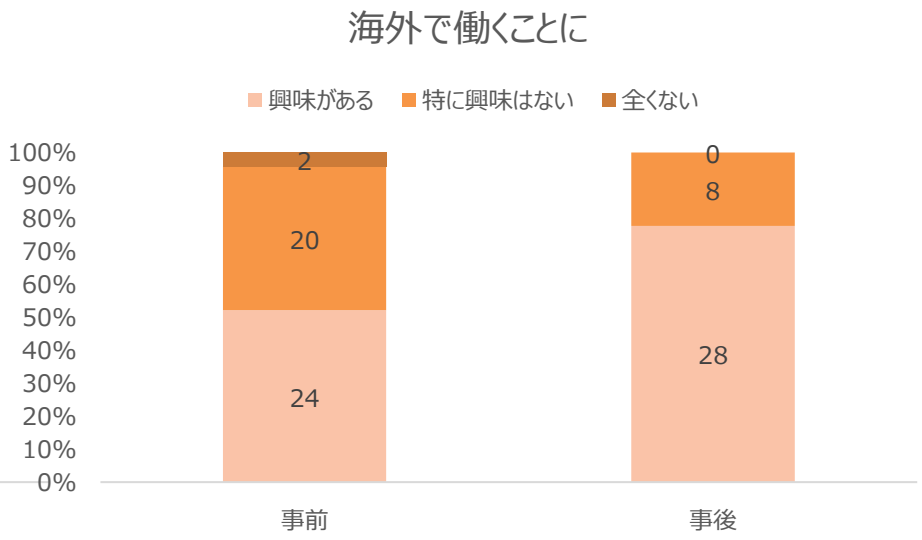


©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

事前・事後効果測定アンケート

【海外とのつながり】

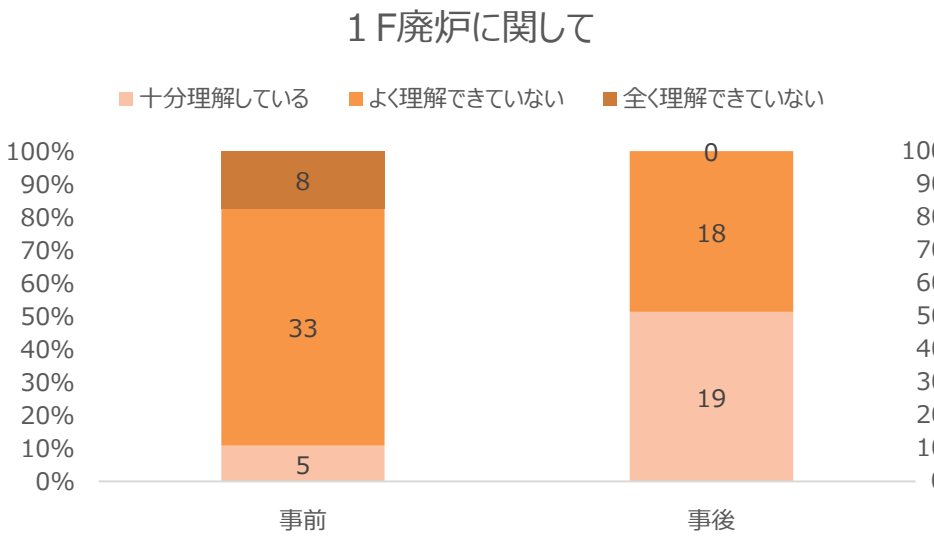


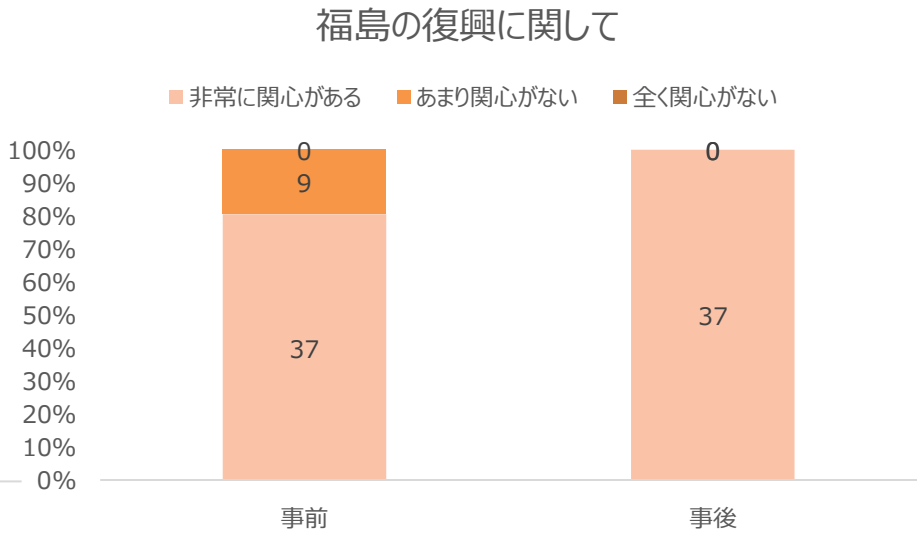


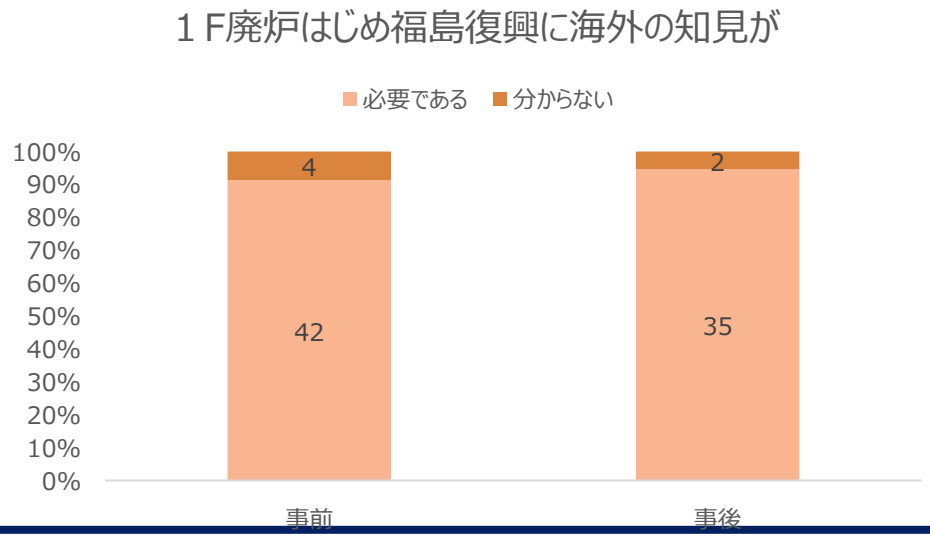
©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

事前・事後効果測定アンケート

【廃炉および福島復興について】







©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

感想レポート（参加生徒）

【自身の成長】
-自分に自信がついた、もっと勉強したいと思った。
-英語力が圧倒的に不足していることがよくわかったので、実践的な英語を勉強したい。
-自分の可能性は意識の違いでどこまででも広げていける、なんでもできる、と自信がついた。

【メンターについて】
-全てのことは繋がっているので、色んなことに興味を持って学ばなければいけないということ、志望は変えてもいいということをメンターの方から学んだ。
-好きなことを追求すること、女性が活躍出来る場は沢山あることを学ぶことができた
-結婚、出産、育児など女性の社会的なハンデがないことがメンターの方々の話を聞いてわかった

【廃炉について】
-自分の知らないところでたくさんの人たちが福島復興に貢献していたことに感動した。
-原子力分野に興味が湧いたのでもっといろいろ学びたいと思った
-1F視察ではニュースでしか知らなかった現状をより具体的知ることができた。廃炉の進行度を知れてよかった。
-廃炉が難航しており、そんな中でも多くの国々から様々な協力をいただいていることがよくわかった

【浅野撚糸について】
-浅野撚糸の双葉町への思いを聞いて、より復興について、若者ができることについて考えるきっかけとなった。
-故郷である福島県で、世界に大きく影響させる工業がされていたことに驚きだった。
-話を聞くだけよりも実際に見学をすることでより身近に感じられて、福島の復興についてよく考えるようになったので有意義なものだった。
-双葉町にも光が着々と戻ってきていて、うれしい気持ちもあり、もっともっと力になりたいなと思った。

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

感想レポート（参加生徒）

【国際関係】
-働いてる国や環境によってマインドが違うためより世界が広がった。
-英語で話すことで、英語のスキルも向上でき、日本人とは違った考え方が多く、視野を広げることが出来た。
-様々な国のメンターや人生の先生との交流によってたくさんの角度から自分の考えや進路について見ることが出来たのでとても有意義だった
-国境を越えた方々と話すことができ良い思い出になった

【進路について】
-志望は貫かなければいけない、ひとつにしぼらなければいけないと思っていたけれど、その時の自分が好きなこと、興味のあることを追求していけば、変わってもたくさんあってもいいんだなと気づけた。
-自分の将来就きたい職業につくために必要なことを学ぶことができた。
-理系を選ぶと限られた仕事しかないと思っていたが、メンターやリサーチャーメンターの人と話し、多種多様な職種があることが分かった

【引率教員感想】
-理工系の女性が活躍されていることや、他校の女子生徒が高い目標を持っていることを知り、視野が広がり、人生の考え方や選択肢が広がり良かった。
-メンターの先生のポスターセッションは非常に有意義でよかった。
-生徒だけでなく、引率教員もネットワークを広げる機会となった。
-仕事を続けて、キャリアを中断しなくてよいような環境整備や社会システムがもっと必要だと思った。

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation

メディア露出

OECD/NEA HP

東北大学　東北メディカル・メガバンク機構HP

お知らせ

記事一覧 | 全て | ニュース | 成果 | プレスリリース | イベント | 月を選択

2024.08.20 | ニュース |

畑中助教が国際メンタリングワークショップJoshikai in Fukushima 2024 に参加

7月27日(土)～29日(月)に、双葉町産業交流センター(F-BICC)(福島県双葉郡双葉町)で、国際メンタリングワークショップ Joshikai in Fukushima 2024 が開催され、畑中里衣子助教がリサーチャーメンターとして27日のプログラムに参加しました。このワークショップは、将来の進路を具体的に検討する時期にある女子高校生を対象に、国内外の女性研究者・技術者等との交流を通じて科学・工学への興味、関連する社会課題への関心を高め、理工系への進路選択の後押しを行うことを目的として開催されました。

畑中助教は、ポスターセッションで東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査の概要やその成果の一部について説明しました。また、参加者である女子高校生達とのグループディスカッションに参加し、「各参加者のなりたい姿と現在のギャップ」、「どうすればそのギャップを埋められるのか」をテーマに話し合いました。参加者は話し合いを深める中で、新たな気づきを得ていた様子でした。

参加者の一人は、「国内外の多くの女性研究者・技術者の講演を聞き、自分が思っていた以上に女性の活躍の場があるということがわかった。」と話していました。

参加者一同で記念撮影

ポスターセッションの様子。一番右が畑中助教

©Nuclear Damage Compensation and Decommissioning Facilitation Corporation